

北林議員、牛尾議員が聴く 東広島介護支援専門員 連絡協議会の活動について

表紙写真／話をお聞きした皆さん

本市には、令和4年3月末現在、7,731人の介護認定者がおられます。その方々が介護サービスを受けられるようにケアプランの作成や事業者との調整を行うのが介護支援専門員（ケアマネージャー）です。

今回、東広島市の介護支援専門員連絡協議会の方々にお話を伺いました。

プロフィール



東広島介護支援専門員連絡協議会
事務局長 上田 雅也さん



東広島介護支援専門員連絡協議会
理事 角本 伸志さん

ケアマネージャーを身近な存在にするためにケアマネゼ^{セット}奮闘中！

Q 東広島介護支援専門員連絡協議会の活動内容について教えてください。

上田 団体としては、職能の自主的勉強会という形から立ち上がった組織で、会員数は介護支援専門員（ケアマネージャー）以下、「ケアマネ」を中心に150

名目で推移しています。その中でも、運営方針の決定に関わっているメンバーを「ケアマネ」と呼んでいます。

活動の主軸は、1つ目は市内のケアマネの交流、2つ目は会員のケアマネジメント等の技術向上を目的とした研修会等の定期的

な開催、3つ目は各業種の団体との連携を図るほか、行政の会議・福祉事業運営委員会・地域対策協議会などでケアマネとしての意見を提出する、というものです。

Q 幅広く活動されていますが、その中でお薦めはありますか。
上田 月2回開催しているオレ

ンジカフェという、認知症カフェです。

今は市から委託されていますが、7〜8年前から『ケアマネとは？』を市民に伝えるため、福祉まつり等で堅苦しい相談所ではなくカフェという形で出店しています。その中でお客さんに、「実は私たちケアマネなんじゃけど、何か身近な相談などはありませんか。」というような形で話していましたので、その延長で行っています。今では高校生、大学生も参加して高齢者



- ① 取材風景
- ② 運営会議での集合写真
- ③ 東広島介護支援専門員連絡協議会主催のケアマネジメント研修
- ④ 健康フェアでの相談会
- ⑤ アクアフェスタでのケアマネカフェ
- ⑥ 高屋での認知症カフェ



と交流しています。

Q この協議会が中心となって、東広島市の多職種連携の懇親会をされていますね。

上田 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・障害分野関係者・行政関係者など、医療・看護・福祉に関わる150人以上の方が参加（コロナ前）し、楽しく連携ができています。これは東広島独自だと思います。

Q 介護の現場での空気というのは、かなり変わりましたか。

上田 今の60〜70代の方は、世界を飛び回って活躍した方もおられ、自分で介護保険を勉強され、希望もすっかりと言われる方も多くなったと感じます。

角本 利用者さんのためにやればやるほど仕事はたくさんあるのですが、ケアマネの仕事はケアプランを作成するための連絡・調整などといったように、明確には規定されていません。

どこまでがケアマネの仕事で、こういうケースは仕事じゃないとは、僕たちは言いにくいところですが、ある程度の線引

きは必要だと思えます。

Q やればやるほど仕事は増えるけど、報酬は上がらないジレンマですね。

角本 そうですね。当初はケアマネの立ち位置の理解が得られないところもありましたが、今はケアマネが中心でケアプランを展開する認識が医師からも得られるようになりました。ケアマネは非常にやりがいのある仕事ですが、責任や、付随する仕事の多さがとても大変です。

大変なイメージを払拭できるように、私たちが楽しんで活動し、介護職の中でもケアマネとして格好よく仕事ができる、プラスのイメージを持っていただけるような取組みを継続していきたいと思っています。

上田 我々の活動の後継は意外と難しい課題ですが、やはり楽しいこと、格好いいことは、後輩の憧れになると思いますので、活動を続け、そういった背中をしっかりと見せて育てていきたいな、と考えています。